

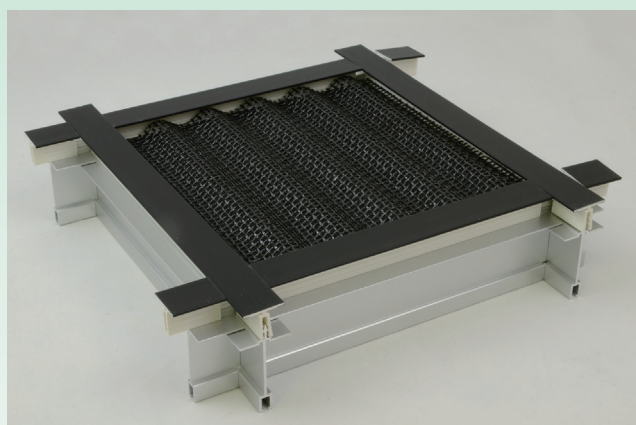
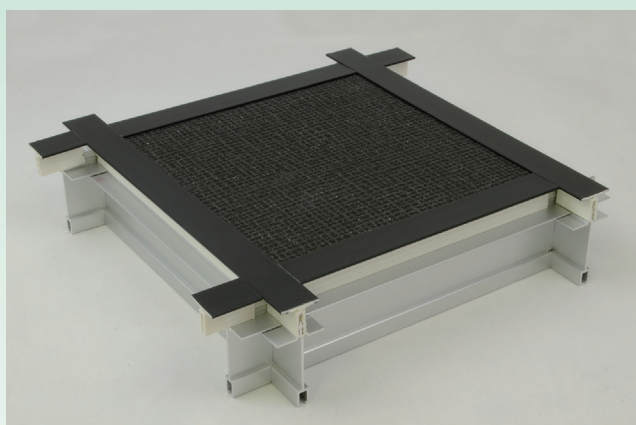
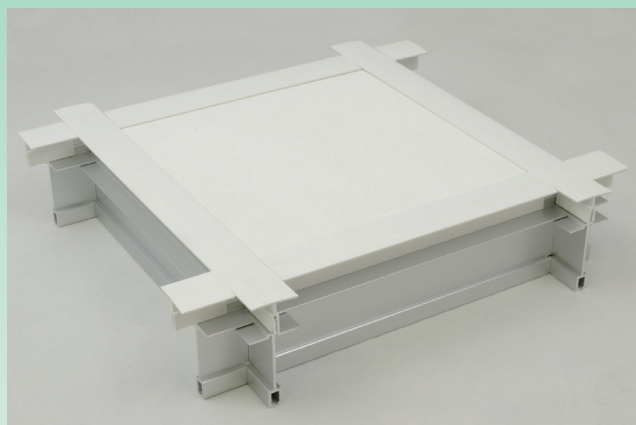
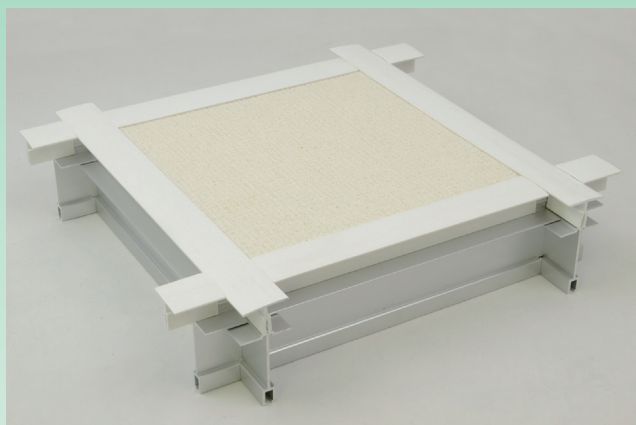
特許出願中

FMS

function maintain seismic

2.0 天井面構成部材重量
kg/m² 以下！

機能維持耐震工法
FMS天井



十分な耐震性能を有し、設置条件を選ばず、
壊れにくく、そして軽くて安全な天井を目指す！

機能維持耐震工法 **FMS天井** は

これを目標に開発しました。



安田株式会社

お問い合わせ 特需開発課まで

TEL 03-5858-0271(代) FAX 03-5858-0281

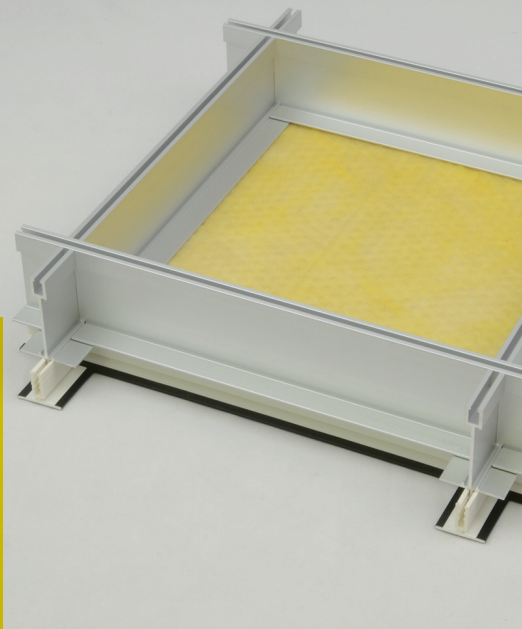
mailto: info_fms@ashibane.co.jp

System overview

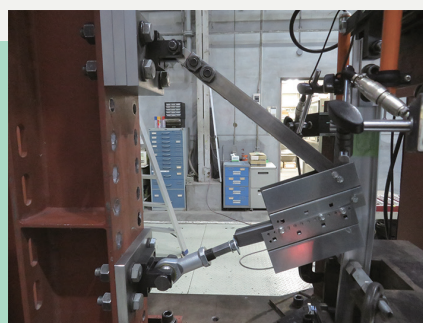
システム概要

グラスウールや発砲系不燃材、さらには新開発の不燃段ボール等、使用部位に要求される用途に応じた各種軽量な天井板をお選び頂けます！アルミ押出型材のメインバーとクロスバーを 910mm×910mm の格子グリット状に配置し、天井板を耐紫外線塩ビ製はめ込みジョイナーにて固定します。

設置位置を任意に選べる画期的な新耐震ブレース機構をメインバー及びクロスバーの各列上に一対設置するだけで、告示771号の耐震基準水平2.2Gに耐える性能を確保しています。一対のブレースが負担する長さを調整すれば大地震にも耐える仕様も可能です。



FMS 天井の耐震実験画像



Importance of maintaining function

機能維持の重要性

東日本大震災を経て2014年国交省は告示771号の耐震基準を制定しました。この基準が適用される天井は天井高さ6m以上、面積が200㎡を超え、天井面を構成する部材の重量が2kg/㎡超で常時人が使用する場所とし『特定天井』と区分されました。

重量が2kg/㎡以下の天井であれば、万一落下しても重大な災害に至らないだろうという観点から特定天井を除外される事となり、他の耐震工法に比べコストが安く、工期も短く抑えることが出来る事から、2kg/㎡以下に抑えた天井工法が次々開発され、主に改修工事等で普及して来ました。

しかし、避難場所の天井が2kg/㎡以下の天井であっても、地震で壊れ、脱落あるいは脱落しかかっていたら、そんな避難場所で安心して休む事が出来るのでしょうか？ 地震が発生すれば、余震が続き、時には本震が後から起こる事もあります。近年頻繁な気象変動による水害等で避難しているところに大地震が起こる事だって無いとは言えないのです。

帰宅困難者の一時退避を含む避難場所、学校、病院、交通機関、防災拠点等、災害時にも機能を維持し、より早い復旧を実現する。天井にもさらなる進化が必要です。